

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会 平成 21 年度いのちのメッセージ発信事業

「いのちの温もりに ふれてみて」

高岡市立平米小学校児童 74 名
平成 22 年 1 月 27 日実施

【いのちの先生】

齋藤 寛明先生

- ・特定非営利活動法人ゆうきの会おやべ設立代表
- ・有限会社齋藤商店代表

【授業の概要】

- 1 齋藤商店の仕事の様子をDVDで見る
- 2 齋藤商店で働く障害がある方々の自己紹介と夢の発表
- 3 合唱曲「きずな」の発表

～児童の感想～

齋藤商店の従業員の皆さんには、何らかの障害があります。それでも、仕事をしているということがすごいと思いました。従業員の皆さんは、お店で働き始めた時から普通の人より何倍も努力してこられたのだと思います。ハンディキャップを乗り越えることが「生きる」ことなんだと思いました。

～児童の感想～

齋藤商店の皆さんは、一人一人「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」の詩を覚えておられました。私だったら覚えられません。どんな障害があっても、神様にのぞまれて生まれてきた人。「自分はいたい人間だ」なんていう人は、自分の可能性を捨ててしまっている人だと思いました。最後にみなさんと歌ってくださった「きずな」は、とても心にしみました。辛い時にこの時のことを思い出せば、生きる希望がわいてくると思います。



～児童の感想～

今日、齋藤商店で働く人たち一人一人の夢を聞きました。その後「きずな」という歌を歌っていただきました。歌詞に「生まれたことに感謝、きずなに感謝」というところがありました。今生きている大切さと、人と結ばれているきずなの大切さが分かりました。

～児童の感想～

私は、いのちの授業で齋藤さんの話を聞いて、障害がある人たちが前向きに、あきらめずに将来の夢に向かって頑張っているということを知りました。

私は、齋藤さんの豆腐屋さんで働いている人たちのあきらめない姿がすごいなあと思いました。私も前向きに、将来の夢に向かってあきらめずに頑張りたいと思います。

障害があっても、自分の夢に向かって毎日毎日一生懸命努力している齋藤商店で働く6名の若者の姿が、子どもたちに感動と生きることの素晴らしさを感じさせた授業であった。また、人間は一人で生きているのではなく、家族や友達、その他の多くの人たちに支えられたり励まされたりして生きているということを夢の発表や「きずな」の歌から学んだ。

